ぐるぐる・誰でもOK・24/7
—LSE Library—

法学部　法律学科　准教授　諏訪野　大

1. LSEを知らない?!

LSEの正式名称は、"London School of Economics and Political Science"。名前は、"School"でも、日本でいう「大学」。MIT[i]だって"Institute"で、「マサチューセッツ工科大学」と訳されている。「大学」は、"University"でなければならないことはない。

ただ、LSEをどう訳すかは、定まってない。「ロンドン大学経済学部」とか完璧に間違った変な言い方をしている記述も見られるけど、やっぱりLSEというのがしっくりくるし、世界ではそれで通じてるから、ここではLSEで。

場所はロンドンの中心。Royal Court of Justiceはほぼ隣。ちょっと歩けば、テムズ川。Covent Gardenもすぐ近く。大英博物館も徒歩圏内。LSEから不便なところは、文字通り不便なところだと言ってもいい。

創立は1895年。Cambridgeの創立が1209年。Oxfordだと創立年は不詳で、1092年に教育していた記録があるので、そのときにはあった、とかいうとんでもないことになっているから置いておくとして、LSEと一緒にUniversity of London[ii]を構成している中心的な大学では、UCL[iii]が1826年、KCL[iv]が1829年。それらに比べても、新しめ。慶應義塾の創立が1858年、東京大学が1877年、東京専門学校[v]が1882年だから、日本の大学ともあまり変わらない。

世界的に見ると新興の部類に入るLSE。ただし、創立者や卒業生、教員から16名のノーベル賞受賞者を輩出している[vi]。

ご存知のとおり、ノーベル賞には、物理学賞、化学賞、生理学･医学賞、文学賞、平和賞、経済学賞がある。でも、理系の3つはLSEから受賞者が出そうにない。なぜなら、LSEは、社会科学の専門大学で、理系の学部がないから。言い換えれば、受賞可能なものが限られているにもかかわらず、これほどの業績を上げているということ。とくに、十八番の経済学賞は、21世紀に入ってからのこの10年で、4人の受賞者が出ている。

英国を代表する大学であると、皆が認めているところで、2008年秋のNAB開設にはエリザベス女王も来場したほど[vii]。トイレには、日本未発売のDyson製ハンドドライヤーも完備されている[viii]。すごい強力に水を飛ばす。

日本でのLSEの知名度が、どうしてこんな程度なのかは、とても不思議。

2. LSEの法学部はすごいよ

名前に"Economics"が入っているし、ノーベル経済学賞受賞者がたくさん出ているから、LSEで在外研究すると言うと、「法学部の人なのに、経済を勉強するんですか」と早合点する人が多い。ちがうー。LSEには法学部があって、英国でも指折りの優秀なスタッフが揃っている。

最新のRAE[ix]は2008年。世界を先導するような高い質を持つと評価された研究業績の割合いが、OxbridgeやUCLを抑えて、堂々の法学分野第1位[x]。しかも、ダントツ[xi]。すばらしい。

LSEでの在外研究中、当時の法学部長Hugh Collins教授に会ったことがない。

なぜか？

教授は、学部長のまま、サバティカルで1年間、米国で研究活動をしていたから。つま

り、学部長でも、研究者としての活動に専念できる環境があり、また、それを可能にする Administrative Staff が充実しているという証拠。日本の大学ではちょっとありえないよなぁ、とうらやましく思った。

こんな LSE 法学部の Visiting Fellow になるためには、公募による審査がある[xii]。その審査を通ると、LSE の施設は使い放題、好きな講義に出放題という素敵な環境が手に入る。

3. ぐるぐる@図書館

大学の研究環境の質を維持し、それをさらに高めるために、なくてはならないのが図書館であるということに文句を言う人なんているんだろうか。国内外の大学図書館もあちこち行ったけど、図書館の充実度がその大学の格を示していると言っても間違いじゃないと思う。

LSE 図書館は、別名“British Library of Political and Economic Science”として知られていて、社会科学に関しては、自他とも認める存在。400 万冊以上の蔵書があり、本棚を直線に並べると 50km。英仏海峡トンネルの長さとほぼ同じ。電子ジャーナルも 3 万ある[xiii]。もちろん、IP 認証だから大学にいなくちゃつなげないなんてことはなく、家でも、スタバでも、インターネットにつながれば利用可能。West Law とか、よく Flat に帰ってから使っていた。

【写真 1】LSE 図書館外観。
本稿の写真はすべて筆者による撮影。

大学図書館、というか、大学と名乗る以上は、全施設において、当然の前提として、もはや必須の Wi-Fi 完備。Visiting Fellow としてもらった ID とパスワードで、図書館も NAB も、どこの教室でもインターネットにつながって、至極快適。

【写真 2】夜になると、図書館は青く照らされる。

蔵書数の多さはもちろん、図書館の建物自体も、その大学の個性を表すものとしてとても大事。たとえば、アイルランドの超名門 Trinity College の旧図書館にある The Long Room[xiv]は、見ているだけですごいなぁ、と感嘆するから。

この点、LSE の図書館も、負けず劣らずで、とても個性的。2001 年に現在の図書館がオープン。設計は、Foster and Partners[xv]。言わずと知れた超大物建築家 Norman Foster が噛んでいる。もし、彼の名前を知らなくても、彼の設計による香港島の香港上海銀行香港本店ビルとか、ベルリンの国会議事堂のガラスドームとか、ロンドンのテムズ川にかかるミレニアムブリッジとか、写真を見れば、「あ、見たことあるー」となると思う[xvi]。

LSE 図書館最大の特徴は、何といっても、大きな吹き抜けと螺旋階段。

増え続ける蔵書を考えれば、少しでもスペースの確保を、というのが図書館なんだろうけれど、そんなことお構いなしで「これが俺の設計だっ」と吹き抜けをドーンと設けちゃうところは超大物建築家らしいところ。しかし、それ以上に、それで OK 出しちゃった LSE はさらにすごい。

【写真 3】名物の螺旋階段。左側の太い白い柱のように見えるのはエレベータ（英国では Lift という。）一番下の青いカーペットでは寝転んで本を読む人もよく見かけた。

はっきり言って、最初の頃は、ぐるぐる昇ったり降りたりするだけでもかなり楽しい。ちっちゃい子どもなら、テンション上がるのは間違いないところ。

この階段を、重いなぁと思いながら本と PC を手に持って、昇り降りしたことは、絶対思い出になるだろうし、卒業生同士だったら、初対面でも、この話で盛り上がれそう。大学の同窓って、そういう日頃の共通体験で、卒業年度が離れていても、途端に仲良く話ができたりするものだから。

4. LSE 図書館入りたい？入れるよ

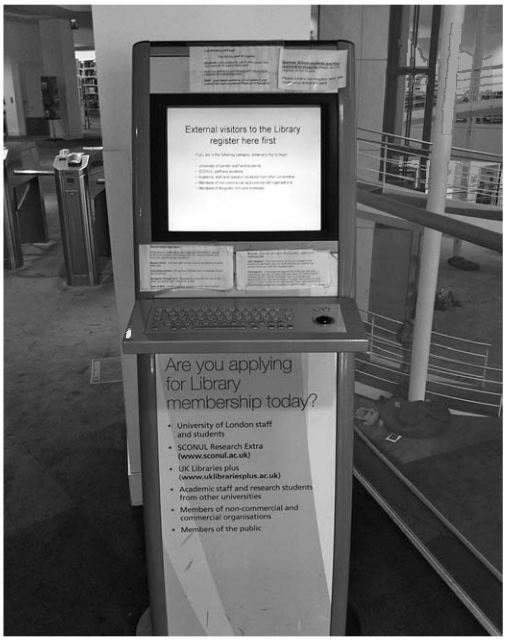
外国の大学の図書館なんて敷居が高そう、紹介状要るのかな、面倒だな…なんて考えなくていい。あっさり入れる。

LSE 図書館は、すべての人に開放されていて、英国では外国人の日本人も 1 年有効の図書館カードを作ってもらえる。しかも、無料。でも、パスポートは忘れずに。

ロンドンに行く日が決まっていれば、インターネットでの登録[xvii]が便利。登録後に来るメールのプリントアウトを持っていくとスルッとカードが発行される。

「渡英前にそんな暇ないぜ」とか、ロンドン行ってから「あ、LSE の図書館行ってみたい」という人もいると思うけど、心配ご無用。

館内には、自分で登録する端末が置いてあって、それでも OK。登録したら、受付で、「あれで登録した」と言えば、大丈夫。



【写真 4】登録端末。もちろん、日本語は使えない。

アドバイスを 1 つ。カードには写真が入る。受付にある PC の Web カメラで撮影するから、

気になる人は、当日、顔の調子を整えてから行くべし。

在外研究中、90 歳の祖父が、母と一緒に、ロンドンに遊びにきたとき、ここの図書館カードを作ったんだ。とてもいいお土産。

5. 24 時間営業といえば、図書館でしょ

日本みたいに、かなりの田舎に行っても 24 時間営業のコンビニがあるなんて便利な国は他にはない。日本って、素晴らしい。

ロンドンも、中心部だったら、中東系やインド系の人が経営している 24 時間営業の雑貨店みたいのはあるんだけど、500ml のコーラが £3.50 とかして、びっくりしたりする。でも、自販機も街中にはないし、仕方がないから、買うしかない。

つまり、24 時間開いているところは、ロンドンでもそう多く見ることはできない。

そのロンドンでは珍しい 24 時間開いている施設が LSE にある。それが図書館。

LSE は 3 学期制。秋入学で、10 月から講義が始まり、クリスマス前まで 10 回。1 月中旬から再開し、イースター前まで 10 回。4 月中旬からまた再開するんだけど、やっても 1、2 回。あとは、6 月のテストに向けて勉強するということで講義はやらない。

つまり、年間で講義は 20 回ちょっと。日本の大学と比較すると、講義回数は約 3 分の 2 だけど、LSE の学生が日本の学生より出来が悪いかと聞かれれば、そんなことは絶対にない。講義回数を増やせば、学生の能力が向上するなんて思うのは、まったく論理的でないことを示してる。

その 3 つの学期には、名前があって、1 学期が “Michaelmas Term”、2 学期が “Lent Term”、3 学期が “Summer Term” と呼ばれてる。他の大学だと、別の名前らしいけど。

LSE 図書館も、さすがに、365 日 24 時間開いているわけではないけれど、Lent Term と Summer Term が 24 時間開館。日曜日ももちろん 24 時間開館。よく朝まで、図書館で原稿を書いていたけど、回りに夜通し勉強している学生もたくさんいた。Michaelmas Term だって、朝 8 時から夜中 0 時まで開館しているんだから、普通なら、これで十分。

ただ、24 時間ずっといられるのは、LSE のスタッフか学生だけ。Visiting Fellow はスタッフ扱い。夜中 0 時になると、警備の人が巡回して、カードをチェックして、一般の人は出て行かなければならないことになっている。

【写真 5】地下 1 階の自由利用コンピュータ席。各階にも自由利用コンピュータが設置されている。当然、Wi-Fi 完備のため、PC を持ち込んでのインターネット接続も可能。

これだけ、長時間、図書館に居続けられると、飲み物もなしにというわけにはいかない。買いに行くにしても、いちいち本や PC を持って出かけなくちゃいけないのは面倒。かといって、図書館だから、飲み物を持ち込んで、こぼして本をダメにするわけにもいかない。そこで、蓋のついているペットボトルならば持ち込めることになっている。

合理的。

2 リットルの水を持ち込む学生もよく見た。

6. 図書館は楽しい

三田[xviii]の院生だった頃、よく閉館まで図書館にいた。いろいろな資料を探しては、論文を組み立てることがとても楽しかった。

LSE の図書館は、そんな自分を久々に感じさせてくれた。

朝方、原稿を終えて、夜明けのKingswayから誰もいないCovent Gardenを抜けて、Leicester Square近くのFlatに帰る。そのとき味わう充実感は心地よかった。

まだ、これからも研究者をやれそうな気がした。

---

[i] 米国のMassachusetts Institute of Technology、東工大はじめ、多くの日本の工業大学もInstituteを用いる。

[ii] 「ロンドン大学」ということが多いが、LSEをはじめとする各大学の連合体であって、1つの大学ではない。なお、QueenのBrian Mayの出身校であるImperial College London,ICLは2007年に独立した。

[iii] University College Londonの略称。伊藤博文、夏目漱石、小泉純一郎などと関係がある。

[iv] King's College Londonの略称。

[v] 現在の早稲田大学。

[vi] "Nobel Prize winners" http://www2.lse.ac.uk/aboutLSE/keyFacts/nobelPrizeWinners/Home.aspx

[vii] "New Academic Building"の略称。日本風の階の数え方でいうと、地下1階に大教室、1階に受付、売店、カフェ、中2階にももう1つカフェ、2・3階に教室、4－6階が経営学部教員研究室、7・8階が法学部教員研究室、9階に会議室、テラス。"Opening of the new academic building commemorated in film" http://www2.lse.ac.uk/intranet/LSEServices/estatesDivision/lseEstate/campusBuildings/newAcademicBuilding/nabVideo/home.aspx

[viii] http://www.dyson.co.uk/handdryers/default.asp

[ix] "Research Assessment Exercise"の略称。67の分野ごとに、各大学の教員の研究業績の質を5段階で評価し、全体数に対してその割合いを発表する。当然、最高の評価を受けた研究業績の割合いが高いほど、その大学の評価が高くなる。RAEは、研究費の配分決定に用いられるため、各大学はこの評価を上げるために努力をしている。

[x] http://www.rae.ac.uk/results/qualityProfile.aspx?id=38&type=uoa

[xi] LSEが45%、OxfordとUCLが35%、Cambridgeが25%。

[xii] 詳細は、http://www.lse.ac.uk/collections/law/research/visiting_fellows.htm

[xiii] "About the Library" http://www2.lse.ac.uk/library/news/about/Home.aspx

[xiv] http://www.tcd.ie/Library/bookofkells/old-library/ 写真は、http://templehurst.tumblr.com/post/1077149840/cleolinda-maudelynn-the-long-room-trinity

[xv] "Overview and history" http://www2.lse.ac.uk/library/news/about/history/overviewhistory.aspx

[xvi] "Foster + Partners" http://www.fosterandpartners.com/Practice/Default.aspx

[xvii] "Application for LSE Library Card - STEP 1 of 2" https://library-1.lse.ac.uk/SelfReg/registration/create

[xviii] 「さんだ」ではなく、「みた」。